

アドバイザー派遣事業 実施レポート

研修実施団体	中部小学校教育研究会 国語部会（倉吉市）
研修テーマ	「論理的思考力を高める説明的文章の読み取りの指導」
研修期日	平成29年10月11日（水曜日）14時00分～16時45分
研修場所	鳥取県倉吉市立上北条小学校
アドバイザー	玉川大学教師教育リサーチセンター 興水かおり先生

<興水先生の指導助言を受けて>

・育成すべき資質・能力と3つの柱

「何を知っているか」

「知っていることをどう使うか」

「どのように社会とかかわり、よりよい人生を送るか」を意識した育成を目指す。

・国語科において育成を目指す資質・能力

①生きて働く「知識・技能」の習得

②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成

③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養

○主体的な学びの実現に向けて

→学習の見通しを立て、いつでも振り返りができる場面を計画的に設けること

→身近な話題や社会問題を取り上げるなどして自己の生き方に関わる話題の提供

○対話的な学びの実現に向けて→子供同士、子供と教師などで議論したり協働したりする

→自分自身との対話を深めて言語化することで自覚化する

→書いて残すことが重要

○深い学びの実現に向けて →思考を深めたり活性化させたりしていくための語彙を豊

かにすることが重要

・児童にとって積み上げが実感できる活動になるために、目的やねらいが明確になるように指導すること

○低学年部の協議より

・クイズを作る中で問い（～なのでしょうか。4）と答え（それは～だからです。）というような言い方をきちんととらえる。

・単元を通して言語活動を大切に、国語の力をつけていくことが大切。

○中学年部の協議より

- ・論理のまとめ方を学ばせることが大切。本時では、接続語を使うと短くまとめることができる。
- ・要約の違いを比べるために、2、3抽出して全体で比較する、要約のよいところを取り上げほめてモデル化するなどが効果的。
- ・中学年で要約について学習することは、高学年に向けて大切。教材文や他の文章などを用いて要約を訓練する。

○高学年部の協議より

- ・二次の読み取り段階で、文章構成の良さと説明する材料の判断基準を学ばせる
- ・三次の情報選定の時に判断基準に沿って、取捨選択させていく

○校内の研究の方向性

- ・トリオトークの学び方の研究と説明文の読み取り方の上北条のスタイルの構築が必要



ICTと図書資料の活用で積極的な学習参加を促す。



ホワイトボードに記入することで発言内容を整理できる。



デジタル教科書と電子黒板により、児童の思考を可視化することが容易になる。



トリオトークによって学習参加を促し、対話的な学びにつなげる。

